

福井県芋ヶ平の水棲甲虫類

後藤光男

筆者は本年9月9・10日の両日福井県今庄町にゆき、宅良川最奥の部落芋ヶ平で水棲甲虫類を採集する機会をもつたので、採集出来た種類並びに若干の知見について述べたい。

ここに記録した甲虫類のうちガムシ科については佐藤正孝氏の同定を経たもので、記して厚くお礼申上げる。

Hydrophileidae ガムシ科

Pseudohelochres narusei M. SATO

1 sp. 川の中程の石下(水深約50cm)にて採集した。

Pelthydrus japonicus M. SATO

1 sp. 上記と同一箇所にて採集した。

Laccobius bedeli SHARP シジミガムシ 2 sps.*Hydrocassis lacustris* (SHARP) マルガムシ 6 sps.

共に水辺の石下にて採集した。

Dytiscidae ゲンゴロー科

Platambus picipennis SHARP キベリマメゲンゴロー

2 sps. 水辺の石下で採集した。

Gaurodytes sawadai (KAMIYA) サワダマメゲンゴロー

1 sps. 岸辺にて採集した。

Neptosternus nipponensis KAMIYA キボシツブゲンゴロー

1 sps. 岸辺に生えるカワヤナギの根方より採集したが、本種は非常に少ないようで

今までの記録は本州(浅川, 玉川, 雲出川, 三滝川)・九州(諏訪川)しか知ら

られていず、採集記録も佐藤正孝氏(ひらくら, I, 8, p. 5~6, 1957)・

成瀬善一郎氏(ひらくら, IV, 7, p. 48, 1960)の報告があるだけである。

Dryopidae ドロムシ科

Elmomorpha brevicornis SHARP ムナビロツヤドロムシ

29 sps. 岸辺に洗われたカワヤナギの根方や水草の根中、増水の際の流失物防止柵のゴミの中より採集したが、カワヤナギの根方から最も多く採集でき、殆んど根間の泥中に入っていた。

Elmidae ホソドロムシ科

Drypomorpha nakanei NOMURA ヒメハバビドロムシ

1 sp. カワヤナギの根間の泥中で採集した。この種は他のホソドロムシ科甲虫とその棲息場所がやや異つているようで、大部分のホソドロムシは水底の石下や泥中で得られるのに、本種は水辺の泥中や水辺に埋まる木材下で採れる方が多いようである。

Ordobrevia maculata (NOMURA) アカモンゾドロムシ 2 sps.

Ordobrevia gotoi NOMURA ゴトウモンゾドロムシ 9 sps.

2種共川中の石下の泥の中に棲息している。

Grouvellinus marginatus KONO キベリナガアシドロムシ 3 sps.

Optioservus rugulosus NOMURA ヨツモンヒメドロムシ 10 sps.

Zaitzevia awana (KONO) アワツヤドロムシ 10 sps.

Zaitzevia gotoi NOMURA ホソツヤドロムシ 4 sps.

上記はいつでも川底の石下で採集した。

岐阜県恵那市馬越のホソドロムシ科甲虫類

後 藤 光 男

筆者は本年11月4・5の両日所用のため恵那市を訪れたが、その折中野方町馬越にて若干のホソドロムシ科甲虫類を採集したので、ここに記録しておく。

馬越を流れる川は木曾川水系であるが、やや高所であるので流れは非常に急である。又周囲は常落葉混合の低かん木林である上に、第二室戸台風の被害を受けていたので、期待した程多くは得られなかつた。

Optioservus rugulosus NOMURA ヨツモンヒメドロムシ 1 sp.

Zaitzevia	awana	(KONO)	アワツヤドロムシ	2sps.
Z.	brevis	NOMURA	ヒメツヤドロムシ	1sp.
Z.	ovata	NOMURA	マルツヤドロムシ	1sp.
Z.	gotoi	NOMURA	ホンツヤドロムシ	1sp.

新入会員

- 327.
- 328.
- 329.
- 330.
- 331.
- 332.
- 333.
- 334.
- 335.
- 336.
- 337.

住所変更

- 312.
- 160.
- 99.
- 50.
- 265.
- 262.

認定退会 (36・10・7)

昆虫学評論第14巻の会費を御納入下さい

昆虫学評論第13巻第2号で貴方の会費は会費切れとなりますので、遅くとも昭和37年1月末日迄に当会事務所宛第14巻分500円を納入願います。

「藤原岳の昆虫」

三岐鉄道・三重県立博物館

鈴鹿山脈北部の藤原岳(海拔1135m)は石灰岩質の地質構造から、鈴鹿山脈中南部の花崗岩質と対照的な相違を示し、むしろ滋賀東北部伊吹山に到る地域に関連する特長のある自然をもつている。今回、三輪勇四郎博士・後藤光男・石田昇三の諸氏を中心とする三重昆虫談話会のメンバーが協力し、5年余に渉る調査結果をまとめ、その昆虫相についての立派な報告がてた。巻頭には優れた生態写真を含む図版多数を掲げ、同地の研究略史・懇切な採集手引の後、直翅目、溪流の昆虫・トンボ・半翅目・蝶・蛾・鞘翅目・膜翅目の順に66頁にわたり紹介され、末尾に関連文献が多数示されている。内容を通覧するのに、やはりトンボ、蝶・鞘翅目の章が極めて充実していて、1地域の昆虫相の報告としては、内容・体裁ともによつたもので、この地域のファウナを知る上に便利なばかりでなく、初歩の研究にもよい手引書としての性格をもつていることは、発行者の理解と編著者の努力が結実したものと思う。唯誤植と明らかな写真説明の誤りが目につくのは惜まれる。B5、上質紙、iv+アト14図版+88頁 1961年8月・希望者は、200円(寄込)をそえて、三重県津市西町 大川方 三重昆虫談話会 又は大阪府泉北郡高石町北609 後藤光男宛申込みれば入手できる。(林)

月 例 会

第41回例会 昭和36年9月16日

第2室戸台風来襲のため流会。

第42回例会 昭和36年10月21日

出席者：藤田国雄・浜 裕夫・日浦 勇・河野 洋・村上喜与志・中川宗次郎・大倉正文・岡田康稔・芝田太一

大倉正文………日本産オサムシ科について。(1)

月 例 会 催 開 の お し ら せ

月例会を第3土曜午後2時から大阪市立自然博物館において開催しています。引続き日本産甲虫のチェック・リストを配布する予定です。お気がるに虫友おさそい合せ御出席下さい。

1月以降の例会は次のとおりです。

1月20日、2月17日、3月17日、4月21日、5月19日

日本産甲虫チエツクリスト頒布

月例会の席上配布していますチエツクリストを1部30円(10円切手3枚・送料含む)でお分けいたします。残部僅少につき至急お申越下さい。(神戸市東灘区御影町天神山 当会事務所あて)

- №. 1. 日本産天牛科仮目録 (1)
- №. 2. " (2)
- №. 3. 日本産ハンミョウ科目録
- №. 4. 日本産アオゴミムシ属目録
- №. 5. 日本産オオキノコムシ科目録
- №. 6. 日本産天牛科仮目録 (3)
- №. 7. 日本産オサムシ科仮目録 (1)

昭和35年度収支決算書

(自 昭和35年1月1日
至 昭和35年12月31日)

日本甲虫学会

収入之部		支出之部	
入会金	1,650-	印刷費	101,732-
会費	129,280-	通信費	10,063-
バックナンバー代	10,540-	消耗品費	2,130-
別刷代	17,050-	大会費	48,248-
図鑑印税	87,979-	幹事会費	2,290-
大会会費	40,000-	雑費	100-
雑収入	4,887-	合計	164,563-
前期繰越金	103,125-	差引次期繰越金	229,948-
合計	394,511-		

新入会員を御紹介下さい

秋の幹事会で昭和37年度は第14巻第1号(4月)・第2号(8月), 第15巻第1号(12月)に発行の決定をみています。更に会員の増加をはかつて, より内容の充実した昆虫学評論をお届けしたいと思っておりますので, 入会されていない方を御存じでしたら, この際は是非入会されるようお誘い下さい。

バックナンバー

第4巻迄に更に欠号が出てきました。お早い目に当会事務所宛御注文下さい。

第1巻～第4巻揃(但し第2巻第1・2・4号欠)	300円
第5巻～第9巻 各巻につき	400円
第10巻～13巻 各巻につき	500円
総目録(第1巻～10巻)	50円

志賀製品のあつせん

志賀製品の取扱いを始めて重宝がられています。芝田太一氏宅(大阪市東区淡路町4丁目68 電話:23局8756)まで御足労下さい。

インロ型標本箱 大型 1箱450円・小型1箱300円

昆虫針(ステンレス無頭)1・2・3号 100本包 70円

携帯用ポケット箱 85円, 吸虫管 140円, 先尖ピンセット 230円

正10倍ルーペ 550円, 平均台 80

各種ラベル

御採集の標本には是非小型で上質白色厚紙の美しいラベルをお付け下さい。

採集地名用(10地名1枚)1000枚 即ち1万頭分(地名・国名・年号・採集者名)

同定用(10小間1枚)1000枚 即ち1万種分(同定者名・年号)

上記2種共に本邦最小4・5ポイント活字・6ポイント活字縮版・タイプ活字縮版等御希望にて調製します。

属名用(10小間1枚) 1枚につき2円 送料は40枚まで10円

種名用(10小間1枚) 1枚につき2円 送料は40枚まで10円

いづれも御希望の方後藤光男宛10円切手同封で見本御請求下さい。

あとがき:お蔭様で“ねじればね”も“昆虫学評論”におんぶして3冊発行できました。本年もあと数日で1962年を迎えようとしています。みなさまお揃いでよき新春を迎えられるよう祈ります(510)

日本甲虫学会会則

1945年11月3日制定

1960年10月15日会名変更

1961年11月12日一部変更

1. 会 名：本会は日本甲虫学会という。
2. 目 的：本会は昆虫学の発達普及と会員相互の親睦を計ることを目的とする。
3. 事 業：本会は次の事業を行なう。
 - a 機関誌「昆虫学評論」の発行
 - b 昆虫に関する臨時出版物の刊行。
 - c 年1回の大会の他、随時採集会・講演会・座談会等の開催。
 - d その他必要と認められる一切の事業。
4. 会 員：本会の会員はつぎのとおりとする。
 - a 賛助会員：年10,000円以上を納めるもの。
 - b 正 会 員：年500円を納めるもの。4の2. 会費はすべて前納するものとする。
5. 役 員：本会に幹事若干名をおく。
 - 5の2. 幹事の互選により常任幹事若干名をおき、会務を分掌する。
6. 会 計：本会の会計年度は歴年とする。
7. 入 会：本会に入会を希望するものは、住所・氏名を記し、1年分の会費をそえ、申込むものとする。
8. 事 務 所：本会の事務所は当分の間下記におく。

神戸市東灘区御影町天神山46
9. 付 則：当分の間、第4条会員の中「年500円を納めるもの」とは「昆虫学評論各1巻につき500円を納めるもの」第7条入会の中「1年分の会費」とは「昆虫学評論1巻分の会費」と、それぞれ解釈するものとする。
 - 9の2. この会則は昭和37年1月1日から適用する。